

平成30年度 あいこうか生涯カレッジ講座一覧表



【地域発見講座】 10:00～12:00

回	月日	曜	会場	講師（敬称略）		テーマ
①	6/2	(土)	甲賀市役所	おはなしグループ 甲賀市ALT	紙ふうせん パー・トマス	開講式・おはなし会 記念講演「魅せられて 甲賀」
②	6/16	(土)	多羅尾公民館	市歴史文化財課	長峰 透	家康決死の伊賀越え 交流会
③	7/14	(土)	五反田公民館	なかお農園	中尾千重子 中尾 久	甲賀の里でぶどうを育てる
④	7/21	(土)	美富久酒造	美富久酒造代表	藤居 範行	お酒を知る・お酒を楽しむ -酒蔵見学-

【体験的学習講座】 10:00～12:00

回	月日	曜	会場	講師（敬称略）		テーマ
⑥	12/8 (期日変更)	(土)	水口高等学校	水口高等学校	大森比呂子	かんぴょうを使った料理
⑨	10/27	(土)	樺野寺 阿弥陀寺	樺野寺住職 阿弥陀寺住職	三浦 密照 佐藤 道明	33年に一度のご縁 -樺野寺宝物殿大開帳- 名刹の旅 -阿弥陀寺-
⑪	11/24	(土)	大池寺	大池寺住職 演奏(補講)	清水 壽晴 水越 美鈴	ミュージック in 水口
⑫	12/ 1	(土)	甲南高等養護学校	甲南高等養護学校	野坂 鉄夫	秋・冬の草花の寄植え

【理論学習講座】 10:00～12:00

回	月日	曜	会場	講師（敬称略）		テーマ
⑤	9/15	(土)	立命館大学 びわこ・くさつ キャンパス	立命館大学 生命科学部准教授	木村 修平	ビブリオバトルで広がる！本の輪、人の輪 -本を通して人を知る 人を通して本を知る-
⑦	10/13	(土)		立命館大学スポーツ 健康科学部教授	真田 樹義	健康づくりとウォーキング
⑧	10/20	(土)		立命館大学食マネ ジメント学部准教授	木村 裕樹	ふるさと近江の食文化
⑩	11/10	(土)		立命館大学文学部 教授	田口 道昭	生誕140周年 与謝野晶子の文学
⑬	12/15	(土)		立命館大学理工学 部教授	小林 泰三	地盤リスクを知り、災害から身を守る 閉講式 交流会

【補講】 希望者のみ自由参加

回	月日	曜	会場	講師（敬称略）		テーマ
①	8/25 <午後>	(土)	キャンパスプラザ京都	龍谷大学	野呂 靖	はじめて学ぶ日本仏教
②	11/3 <午後>	(土)	キャンパスプラザ京都	京都府立医科大学	竹中 洋	聞く、話す、飲む
③	11/24 <午前>	(土)	大池寺	リコーダー奏者 ビオラ・ダ・ガンバ奏者	水越美鈴 西村喜子	蓬萊庭園鑑賞とリコーダーの音色
④	12/24 <午後>	(月) (祝)	びわ湖ホール	大津シンフォニックバンド	森島洋一 中嶋民男	第75回 定期演奏会

■地域発見講座

第1講 テーマ 「魅せられて 甲賀」

-ALT 体験日記-

(会場: 甲賀市役所)

第1講は、甲賀市役所にて開催。市教育長である山下学長の激励の言葉後、今回おはなしグループ「紙ふうせん」のストーリーテリング4題が披露されました。このプログラムは、ボランティア活動の1モデルとして登場していただいているものであり、地域づくり・子育て活動の参考になればとの意図が込められています。

そして、記念講演。講師は甲賀市の国際交流員バー・トマス氏。「魅せられて 甲賀」のテーマで、アメリカ人の眼には、「甲賀がどのように映っているのか」を語っていただきました。ALTとして市内小中学校で英語教育を担当。先生は、①児童・生徒たちの一生懸命さに感心する ②日本の掃除活動を見習いたい ③給食風景が新鮮だった ④夏休みのラジオ体操も興味深い行事とのお話をされ



(バー・トマス氏)

自分の生い立ちやミンガン州の様子もおりませで講義を組み立ていただき、印象に残る講座となりました。
受講生からの感想・意見は、「日本人以上に日本を愛しておられる様子に考えさせられることが多かった」「価値観の違いが新鮮だった」、ほか講師への応援エールが多数寄せられました。

第2講 テーマ 「家康決死の伊賀越え」

交流会

(会場: 多羅尾公民館・御斎峠)

受講生32名、スタッフ9名、事務局4名が参加。1582年6月2日、織田信長が明智光秀に討たれる、あの「本能寺の変」が勃発。当時信長側につき、大坂に滞在していた家康が、身の危険を感じ三河に逃れるという場面の歴史講座でした。桜峠か御斎峠か、はたまた、別のルートなのか。それは、記録や当時の社会勢力情勢から、徐々に明らかにはなっていますが、推測の域を出ない部分もあり、



(多羅尾公民館)

今も論議的となっております。御斎峠は、近年では家康本人が越えたという説からは離れている状況(信長に反感をもつ音羽衆居住エリアに近い)のようです。いずれにしても、最終的には、本人に聞くよりほかに確実な方法はないようです。

この日は、講義後、御斎峠に行き、展望台まで登頂。伊賀上野の景色を眼下に眺め、家康に思いを馳せました。

その後、公民館に戻って交流会。お近くの田中様や地元の皆様におにぎりとお味噌汁・お漬物を作ってもらい、お皿替わりの朴葉(ほおば)の上で郷土の味を賞味させていただきました。「甲賀に住んでいるけれど、多羅尾に来たのは初めて」との方が多く、受講の皆様、一様に今回の経験を喜んでくださいました。



第3講 テーマ 「甲賀の里でぶどうを育てる」

交流会

(会場: 五反田公民館)

今年度、第6次産業最前線からは、なかお農園様。鈴鹿山麓の休耕田を活用したぶどう園が第3講の舞台となりました。大学での学習や起業までのプロセス、ぶどうに至った理由、そして、ぶどうの木育て方、土壌づくり・房づくりなどを、整理された言葉で解説していただきました。専門機関の指導を受け、実らせることに成功された7種類ものぶどう。その味の特徴や皮ごと食べられる「シャインマスカット」「リザマート」のお話など、興味深いお話が続きました。

とりわけ、「ぶどうが語りかけてくる」「台風で傷んだ木から芽が出て、ぶどうに励まされていると感じた」…とのお話に多くの受講生が感銘を受けました。大事にされていることは、ぶどうそれぞれの個性、天候、時期、土壌。そして、研修と改良・開発。

受講生の記録には、①講師の話しぶりが率直・合理的で、かつ感性の豊かさが窺えて、とても聴きやすかった、②好奇心をいつも持たれ、次々と行動に移される姿に「自分もがんばろう」との力をもらった、③機会があれば、自分たちのイベントにも来てほしい…が記され、探求心と実行力、そして、ぶどうを見る温かい目に賞賛の拍手が送られました。この日は大変暑い日でしたが、冷えたブドウ入りのジュレをいただき、しばしの交流を深めました。会場をご提供くださいました五反田区様ありがとうございました。



(なかお農園 中尾氏)

(五反田公民館)



創業1917年(T6)、美富久酒造様にて第4講を開催。この日は、のれんを守ってこられた歴史や酒造りの基本・工夫を聞く班と酒づくりの流れに添って酒蔵を見学する2班のローテーションで運営。酒好きにはたまらないほどいい匂いのする酒蔵でお話を聞き、この日も大変暑い日ではありましたが、気持ちのよい時間が過ごせました。飲み物としての酒だけでなく、酒には生活を豊かにする何かがある、酒は天の美祿(びろく=賜物)、酒にまつわる格言や箴言(しんげん: いましめの言葉)にも、興味深いものがあり、店に並んだ何種類ものお酒、その全てを一通り飲んでみたい気分させられました。



受講記録には、①お店の歴史や商品開発のあゆみがよくわかった、②仕込み水・甘酒・酒の試飲(運転者除)をさせていただき、印象深い講座となった、③宣伝活動を大事にされ、消費者への直接販売にも力を入れられるようになったのは正解と思う…等の感想がありました。“たくさんの感謝の気持ちを形にかえて、近江の地酒で贈り物”、こんなキャッチフレーズもスッと入る1日になりました。

美富久酒造様、また、駐車場をご提供くださいました NEC ライティング株式会社様、ご協力ありがとうございました。

(美富久酒造 藤居社長)

■理論学習講座

第5講 テーマ「ビブリオバトルで広がる 本の輪 人の輪」

(会場: 立命館大学 BKC)

受講生からの提案を受け実施することになったビブリオバトル。立命館大地域連携課に講座開設を働きかけると、ビブリオバトル創案者が当大学情報理工学部所属の谷口忠大教授とのこと。もちろん即座にOK。この日は、普及委員の木村准教授から、経緯・ルール・留意点など、基本的なことを学んだ後、各地の取り組みについても紹介していただきました。講座の後半は、あらかじめ依頼をしておいた3名の受講生にバトラーになっていただきバトル開始です。

最初のK・Mさんは「わたしだけの般若心経読み書き手本(藤井正雄・石飛博光・杉本健吉共著)」を、続くA・Tさんは「向こう岸に行った人々(野田秀樹著)」、最後のK・Aさんは「やさしい日本語(庵功雄著)」を戦いのステージに上げてくださいました。

この別名、知的書評合戦。「初めての出会いでした」「歳をとると新しいことが入りやすくなる。器の広い自分になりたい」「久しぶりに本を読んでみようかな」「聞き手の大切さがよくわかった」「刺激的な講座でした」…、との感想が寄せられました。「自分の想像する世界が、自分を助けてくれることがある」とは、2018国際アンデルセン賞を受賞された作家角野(かどの)栄子さん。「本の力でまちづくり」、これは、あいこうか生涯カレッジ実行委員会。図書館の果たす役割が大きいことを改めて考えさせられるいい機会となりました。3人のバトラー様ありがとうございました。



第6講 テーマ「かんぴょうを使った料理」

(会場: 県立水口高等学校)

献立は、「かんぴょうの天ぷら」「かんぴょうとごぼうの甘辛炒め」「かんぴょうとかぼちゃの蒸しパン」、そして「ご飯」。講座日誌には、予想どおり、「かんぴょうを使った料理のレポートリが広がった」「まきずしだけではない」。また、「レシピをいただいたので家でも作ってみたい」「授業の中で、高校生にかんぴょうの収穫体験と調理を実習として取り入れられていることに驚き」「感動した。先生にお礼を言いたい」など、受講生一同、“快



い時間が過ごせたことに感謝”の講座となりました。帰りがけにTさんが声をかけてくださいました。「このような食の実習いいですね」。また、この日は、実習前に水口高校110周年のビデオを用意していただきました。当校の卒業生には、懐かしさの気持ちがあふれ、二重の喜びとなりました。かんぴょうを巡るお話や多くの食材・多くの調理器具を準備してくださった大森先生、学期末のお忙しい中でのお手配、誠にありがとうございました。



【体験的学習講座】

(水口高校大森氏)

日本人の死亡に影響する要因。1位喫煙・2位高血圧で3位が運動不足、以下、高血糖、塩分高摂取、アルコール摂取…。この日の講義は、運動不足に焦点をあて進められました。まずは基礎理論。“身体運動時の代謝量が、安静時の何倍に相当するのかを示す尺度＝「メッツ METs」“を学習。そして、身体活動量(エクササイズ)＝METs×時間(h)で決まり、計算上、1エクササイズに相当する活動は、普通歩行で20分、速歩で15分であることを学びました。また、1エクササイズ×体重×1.05＝消費エネルギー(kcal)となることも学びました。



その後、屋外に出て3メッツや4メッツのウォーキングを体感しました。最後は、サルコペニア(加齢による筋量及び筋力低下)とロコモティブシンドローム(運動器の障害のため移動機能低下)を学びました。

講座日誌には、「サルコペニアは40歳位からはじまるに驚き」「3メッツや4メッツの歩行速度を体得したい」「講義と実技の組み合わせがよかった」「健康には何といてもウォーキング」「肥満の問題より、運動不足の問題の方が深刻」「75歳を越えると肥えているほうが寿命が長いにびっくり」「+10(プラステン＝今より10分多く体を動かす)を実践したい」等が記録されていました。

(立命館大 真田氏)

“食べることを文化として考えていくのが「食の文化」。その本質は、食物や食事に対する態度を決めている精神の中にひそむもの、すなわち、人々の食物に関する観念や価値の体系であるといえる。“との定義づけが先ずなされました。その後、日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が、「和食：日本人の伝統的な食文化」と題して、ユネスコ無形文化遺産に登録されたこと、そして、「郷土食」の変遷等についてのお話がありました。

後半は「奥会津の木地師」。実話に基づいた実験的記録映画を視聴。インパクトのあるシーンに考えさせられることの多い講座となりました。

講座日誌には、「郷土食の内容が脳裏に焼きついた」「食事に物語性を持たせる」など、食を見る目が変わったとの感想のほか、「ビデオは衝撃的でした。木地師達の厳しい日常には我々学べべきものが沢山あるように思う」「近江から会津に移られた木地師に親近感を抱いた」「先人の知恵と技に感服」との記録をいただき、本カレッジのテーマに直接迫ることのできる講座となりました。

また、毎回講座を運営するスタッフに対しても、「よくしていただいて文句なし」との、温かい言葉をいただくようになりました。



(立命館大 木村氏)

■体験的学習講座

講座前半は、櫛野寺様を拝観。全面改築となった宝物殿で最澄作と伝えられる「十一面観世音菩薩」と対面させていただきました。三浦ご住職様よりその由緒をご説明いただき、慈悲に満ちた仏の世界を学びました。観音様が33通りに姿を変え我々をお救いくださるとの教えにより、この大開帳は33年に1度ということでした。

また、この日は、東京・大阪の博物館に寄託されていた仏様も里帰りされ、約80年ぶりに櫛野寺仏像群が勢ぞろいとなりました。このような機会に恵まれました生涯カレッジの幸運を喜び合いたいと思います。講座後半は、東隣にある阿弥陀寺様にて、佐藤ご住職様より「名刹の旅」と題した法話を拝聴させていただきました。7枚



櫛野寺



阿弥陀寺

もの資料を準備、増刷りまでしていただき恐縮の至りでした。

受講生の講座記録には、「この地域が昔から信仰の厚い地域であることを改めて感じた」「秘仏観音様に出会えてよかった」「仏像の制作にあたった仏師の思いに想いを馳せることができた」「本堂に設置されていた扇風機が講義のイントロになるとは予想できなかった」「『不求自得(ふぐじとく：求めずとも得る利益)』の言葉が印象に残った」「生老病死の話はじめ、佐藤ご住職様の仏教に対するお考えに興味を抱いた」など、この日は、「全ては心の持ちよう」を学びました。仏教のことを考える時間が持てたことに喜びを感じられた受講生も多かったようです。

与謝野晶子著の「歌集『みだれ髪』を中心に」とのサブテーマを掲げられた文学講座。晶子の代表作、「髪五尺ときなば水にやわらかき少女ころは秘めて放たじ」「その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな」「やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君」の3首を重点的に解説されました。その中で、俵万智さんの『チョコレート語訳 みだれ髪』を引き合いに出され、晶子文学の表現の特徴をデフォルメされました。

人物像については、彼女の作品の中から窺い知れる範囲の中でやんわりと官能的な部分に触れられました。「カレッジに参加しなかったら、一生出合わなかったかも知れないお話し。よかった」「『みだれ髪』の中身にはじめて出合った」「歌から読み取れる作者の立ち位置や思いと読み手の思いに違いが生じることを考えるのもおもしろい」「晶子という人間の存在感の強さ・大きさを感じた」「今後、私は、『山川登美子』のほうに傾倒するかも知れない」「みだれ髪を筆で書いていた晶子。字もみだれ髪よろしく艶っぽかったかも知れません」「これまで、文学に興味はなかったが、素直におもしろいと感じた」等、受講生は、晶子との出会いで、学びの意欲を一層高められました。

11月24日は、法話と演奏会の2本立て講座。清水ご住職様からは、行基菩薩が建立したと伝えられる大池寺の由緒、“日照りに悩む農民のため、灌漑用水として「心」という字の形に4つ池を掘り、その中央に寺を建立した”との話から、一刀三礼にて創られた釈迦如来様のお話、小堀遠州作、枯山水蓬莱庭園のいわれをよどみない言葉で語っていただきました。この日は、大池寺様のお部屋をいくつも独占してしまい、恐縮の至りとなりました。

講座日誌には、「何度も訪れているが、その度に新しい発見がある」「甲賀には、京都や奈良に負けない仏像がある。多くの人に来てもらいたい」「若い頃にはピンと来なかったお話かも知れないが…、大変よかった」「観音様が三十三の姿に身を変えて我々を守ってくださるとのお話が印象に残った」など、多方面にわたる感想が寄せられました。



定番となっている本講座。いい天気恵まれ、40名近い参加者を得ました。この日の講座の流れは、寄せ植えの仕方や注意すべき点の事前学習、その後、屋外に出て鉢植えの実習、最後はまた教室に戻り、肥料や植物の生体についての専門的な学習がありました。実習で使用した花



は、クリサンセマムノースポール、ピオラ、デージー、アリッサム、ヘデラ。それぞれの特徴を生かし、単調にならないように配置。土は、粘土質に配慮して、たくさんもみがらを混ぜる、もみがらの土中での方向によって、保水の役目を果たす場合

があるなど、おもしろい話がありました。その他、窒素、リン酸、カリの話も久しぶりに聞き、学生に帰った気分を味わいました。ただ、今年は「葉牡丹」がなくちょっと残念でした。しかし、成長度の異なる葉牡丹を入れないことのよさもお話ししていただき、妙に納得して作品を持ち帰りました。手際よく実習ができるよう、ご準備いただいた甲南高等養護学校のスタッフ様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



南海トラフ（水深6000mより浅い海底の溝）地震、今後30年以内に発生する確率が70～80%。震度6弱以上。今回の講座は、マスコミ情報で多少耳にしているとはいえ、誠にショッキングなものでした。地震発生のメカニズムや想定される被害の状況などを、甲賀市に照らして解説をいただきました。ハザード（危険性）とリスク（損失の程度）の違いや大規模盛土造成地の問題、そして、地盤液状化の発生条件を地図や画像・動画で科学的にご指導をいただき、防災意識を高めるに十分な講座となりました。





講座日誌には、「どの程度まで、地震に備えようか」「早速、甲賀市のハザードマップをHPで見たい」「自分の住んでいる箇所の危険性を真剣に考えたい」「正しく知り、正しく恐れることが、自分の命を守ることに繋がる」の感想をいただきました。

この日は、講座のあと「閉講式」持ちました。条件をクリアされた29名の受講生に山下学長から修了証書が渡され、一年間の学びをねぎらわれました。岡本座長からは、立命館大学と甲賀市の連携・協力に関する包括協定に基づき、受講生のところに響く閉講の言葉をいただき、一同、大変感激いたしました。

その後、「交流会」をもち、全講座が収録されたパワーポイントを見て一年間の反省をしました。

食事後、早くも次年度の受講に意欲を示しておられる受講生もありました。



■補講

第1回補講 テーマ 「はじめて学ぶ日本仏教」 (会場:キャンパスプラザ京都)

8月25日、立命館大学BKCより紹介を受け、大学コンソーシアム京都主催の京カレッジ大学リレー講座に参加しました。この日は、佛教大学文学部准教授の野呂先生に、「誰もが成仏できる教えとは何か」と題し、『法華経』と最澄の思想を学びました。

学習した項目を列挙すると、①最澄のことばを味わう、②最澄の思想的立場と時代背景、③『法華経』とはなにか、④最澄の『法華経』理解。よみがながないと読めない専門用語が沢山出ましたが、要点は、①仏教がすべて万人を救うものではなく、厳しい修行を経た者だけを救うという教えもあること、②私たちが思い浮かべる大抵の教え(天台宗、浄土宗、浄土真宗、時宗、禅宗、臨済宗、曹洞宗・・・など)は、万人を成仏に導く大乘仏教であること、でした。

あいこうか生涯カレッジからの参加は10数名でしたが、会場は、備え付けの椅子(約250脚)だけでは対応できないほど盛況でした。

第2回補講 テーマ 「聞く、話す、飲む」 (会場:キャンパスプラザ京都)

11月3日。京都府立医科大学竹中学長による講義は、「聞く、話す、飲む 一健康のためにそのしくみを学ぶ」。執刀歴豊富な医師の眼で、人間の一生を、聞く、話す、飲む(食べる)ことから考察されました。印象に残った言葉は、「認知症になった人の過去を振り返ってみれば、①難聴、②もの忘れ、③高血圧、④肥満、⑤睡眠の質、⑥アルコール⑦喫煙、⑧糖尿病、・・・の傾向が見られた」。ドキッ!とされた受講生も多かったのではないのでしょうか。ただ、「認知症の防御因子もある。それは「運動」、「食事」、「社会参加」。」もう、先のカレッジで学んだ「ウォーキング」「食の改善」の実践、そして、「生涯カレッジへの参加」も大きな役割を果たしていることが明確となり、ありがたい講座となりました。本カレッジからの参加者は数名でした。

第3回補講 テーマ 「ムジーク in 水口」 (会場:大池寺)

大池寺蓬莱庭園を目の前にしてバロック音楽を聴くというなんとも贅沢な講座。受講生からの提案により実現しました。演奏者は、大阪音楽大学在学中より、リコーダーの古楽奏法を学ばれ、関西を中心に全国各地での演奏会に出演しておられる水越美鈴氏とイギリスのロンドン市立ギルドホール音楽院にてヴィオラ・ダ・ガンバの奏法を学ばれた関西の古楽先駆者西村喜子氏。「グリーン・スリーヴス」「ダニーボーイ」「小さい秋見つけた」「ヘンデル リコーダーソナタ」の演奏ほか、『バロック音楽とは』のお話や楽器の説明など、誠に、興味のそそられる内容となりました。



受講生からは、「古楽器の音色に触れられて幸せでした」「ヴィオラ・ダ・ガンバとリコーダーの2つの演奏でしたが、素敵なハーモニーが奏でられ、至福の時間が過ぎました」「安らいだ気分になりました」「ヨーロッパ音楽の歴史の一端が学べ、バロックの意味(=ゆがんだ真珠)や歴史上の位置が分かり、新しい知識が身につきました」・・・。

参加者40数名。あいこうか生涯カレッジは、新しい試みに果敢にチャレンジしていきます。

恒例となってきました年末の演奏会への参加。県の威信をかけて建築されたびわ湖ホールでの文化イベントに年に1度くらいは参加したいとの気持ちからこの講座が実現しました。

演奏曲は、「十二夜」「冬物語」「Mr. インクレディブル」「ポルコ・ロッソ 映画「紅の豚」より」「全日本吹奏楽出場曲」「ボレロ」「歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より」と、誠に多彩でボリュームのある曲ばかり。指揮は、甲賀市と関係の深い音楽監督の森島洋一氏と常任指揮者の中嶋民男氏。今年もクリスマス・イブを文化・芸術のシャワーを浴びて過ごすことになりました。

本カレッジからの参加申込者は過去最高の36名。「音楽のねうちが伝わるひとときでした」「入場者が千人を超えたと聞いてびっくり」「アンコール曲、指揮者のサンタ姿がおもしろかった」の声がありました。

“知的好奇心を大いに発揮し、各所での人の営みや美しい景色・音楽・絵画に触れて自らの生涯を豊かに歩む、そして上げ高めあう。”これが、あいこうか生涯カレッジです。

